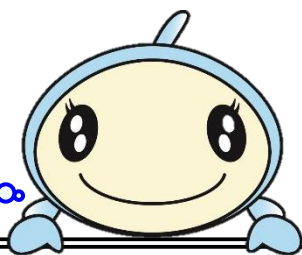


第2号
R5. 4月



【発行・編集】
滑川町教育委員会
TEL0493-56-6907

町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

コロナ禍での生活 マイナス？ プラス？

「コミュニティづくりこそ、ポストコロナ時代の日本の答えであると確信しています。」これは、「マスクを捨てよ、町へ出よう」<方丈社、井上正康氏、松田学氏著>の中で述べられている文章です。ポストコロナ時代の課題はコミュニティ再生だとも言われています。書籍の中で「人々が触れ合う機会が極端に減り、これによって懸念されるのがコミュニティの崩壊です。ポストコロナ時代に向けて、希薄化したコミュニティの再興を図ることは、日本再生の大きなカギを握ると思われます。これからは、お金よりも人を中心とした心豊かに過ごせるコミュニティが必要になります。それぞれの地域の人たちが、**自分の地域社会を自分たちの手で作るという真の住民自治を実現していく気概をもたなくてはなりません**」と述べています。

では、「マスク生活は、子供の心理や発達に悪い影響を与えたか」に対し、『ケーキの切れない非行少年たち』の著者、宮口幸治氏は、著書『素顔をあえて見せない日本人』<ビジネス社>の中で、「マスクをしているメリットもいろいろある。私たち人間は、そんなにヤワじゃない。マスクを着けていることで、むしろ私たちがこれまで苦手としていたものが得意なものへ発達することも考えられる。**マスクで『コミュニケーションの可能性が広がった』**というメッセージを発したい。」と述べています。

また、「マスク生活を経て最も期待していることは、**外見よりも内面的な部分を見る力が備わる**のではないかと。つまり、『見た目』ではなく、性格や感性、表現力といった内面に変わるのではないかと。また、表情以外の別の情報を多く取り入れるために、**他の能力が発達する**のではないかと述べています。

コロナ関連の本を読んで感じたのは、見方、感じ方は様々であり、この時代をマイナスと捉えるか、プラスと捉えるかの差は大きいということです。「あの時は大変だった」「コロナで時間が失われた」と、マイナスイメージばかりで振り返るのではなく、不安を超える安心感をもつことが、今は大事だと感じました。それを教えてくれたのは、昨年度の滑川中学校卒業式で答辞を読んだ佐藤さんからです。佐藤さんは、「中学校生活の3年間をコロナ禍で過ごす中で、悔しくて『どうして』と嘆いたり、自分の運命を恨み、人を羨んだりもしました。ウイルスの猛威の前に私達にできることはあまりに限られていて、『仕方ない』そう思うことでしか、自分自身を納得させる術はありませんでした。苦しい日々だった。楽な道のりではなかった。しかし、私達は不幸な学年ではありません。最高の3年間でした。冬の寒さに打ちひしがれた桜の蕾も大きくなり、その寒さが厳しかった分だけ、大きな花を咲かせようとしています。」という言葉から始まりました。この答辞を聞きながら、マイナス面ばかり考え、子ども達に申し訳ない、仕方なかったと言い訳をしていた私の驕り、慢心が浮き彫りにされ、恥ずかしさで一杯になりました。

これから必要なのは、従来と一味違った、**言葉と言葉以外の情報を用いたコミュニケーションで自分の内面をアピール**することです。そして、それを基につながりをもち、**新たなコミュニティをつくる**ことです。

「コロナ禍での生活をしたおかげで可能性が広がった」と言えるような前向きな気持ちへの切り替え方、新時代に適応したコミュニケーションを、皆で一緒に考えていく時期に来ていると感じています。

新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン

令和5年度におきましては、引き続き感染防止対策を講じつつ、基本的な考え方に基づき、学校園での生活や各種行事等を、安心・安全を第一に取り組みます。

1 基本的考え方

新型コロナウイルス感染症については、長期的な対応が求められることが見込まれる。こうした中でも持続的に子供達の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続していく。

2 学校における感染症対策の考え方

学校においては、手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクが高い「3つの密(密閉・密集・密接)」を避ける、身体的距離を確保するといった感染症対策を徹底する。

3 マスク着用の考え方の見直しについて

- 子供達及び教職員については、学校教育活動に当たって、マスクの着用を求めないことを基本とすること。
- マスクの着用を希望したり、健康上の理由によりマスクを着用できない子供もいることなどから、学校や教職員がマスクの着脱を強いることのないようにすること。子供達の間でもマスクの着用の有無による差別・偏見等がないよう適切に指導を行うこと。
- 学校教育活動の中で、「感染リスクが比較的高い学習活動」の実施に当たっては、活動の場面に応じて、一定の感染症対策を講じること。また、部活動等においても同様であること。
- 感染症が流行している場合などには、教職員がマスクを着用する又は子供達に着用を促すことも考えられるが、その場合においても、マスクの着用を強いることのないようにすること。

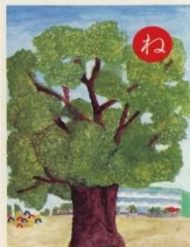
滑川町のよさを知ろう! 「滑川郷土かるた」を通して No.4

令和3年に月の輪小札をつくり、学校札が4枚になりました。それを紹介します。



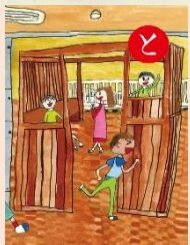
宮前小 桜が映える 丘の上

4月8日は始業式・入学式。新しい学年に胸はずませてくる宮小っ子を満開の桜があたたかく迎えてくれます。また、以前、校庭に弥生時代の竪穴住居が復元されていましたが、現在は撤去されています。この一帯は大谷遺跡と呼ばれ、宮前小の後ろの山には古墳群も分布しています。



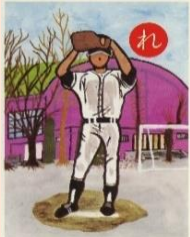
年々の 卒業見守る 楠の大木

明治6年に開校した福田小学校は、明治30年に現在地に移り、今日に至っています。校庭の楠は、昔も今も変わらぬ姿で、元気に学ぶ子供達を見守り続けています。毎年3月には、思い出いっぱいの卒業生がこの木の下から、巣立っていきます。



ともだちと DENで 語らう月の輪

月の輪小学校は、東武東上線つきのわ駅の近くに位置し、平成22年に宮前小学校から分離新設した学校です。コミュニケーションを促進するための空間設計が特徴の校舎です。DENは、廊下にある壁で囲まれた、子供たちには秘密基地のような憩いの場所です。



練習の 掛け声響く 滑川中

滑川中の部活動は、1年を通して積極的に行われています。夏の暑い日、冬の北風の吹く日も、生徒達の元気な掛け声がグラウンドや体育館で響きわたって活気のある学校になっています。